

## 被表彰者の略歴及び主な功績

鱸 俊朗（すずき としろう）

略 歴	鳥取県教育委員会委員（任期：平成28年12月から現在）
功 労 の 内 容	<p><b>○学校教育の充実に関する取組</b></p> <p>平成28年12月の任命以来、「自立して心豊かに生きる 未来を創造する 鳥取県の人づくり」を基本理念とする本県教育を推進すべく、児童生徒一人ひとりに目を向けた学校教育の充実に向け、教育委員としての職務に努めてきた。</p> <p>「鳥取県教育振興基本計画」の平成31年度からの第三期計画及び令和6年度からの第四期計画に向けた改定作業に当たっては、基本理念を実現するための重要な基盤として位置づけられた、児童生徒の「自己肯定感」の醸成について、ふるさと教育や特別支援教育の充実を始めとした幅広い提言を行い、計画改定に大きく貢献した。</p> <p>特に、社会の変革期に対応していくための教育の推進に強い思いを持ち、国際バカロレア教育手法の普及や英語教育の充実によるグローバル社会で活躍できる人材の育成に力を注ぎ、県立高等学校における国際バカロレア教育の導入や、小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業を推進してきた。</p> <p>また、いじめ・不登校問題や、貧困・格差等の社会問題にも関心が強く、いじめ・不登校の未然防止・早期支援の取組や、多様なニーズに応える学びのセーフティネットの構築に向けた取組について、積極的に推進を行ってきた。さらに、令和6年4月には県立夜間中学が開校され、様々な理由により義務教育を修了できなかった者に対する学び直しの機会の提供を実現した。</p> <p><b>○特別支援教育の推進に関する取組</b></p> <p>自身の医師としての経験から、障がいの状態や発達段階に応じた教育の充実のための、知識・技能及び支援方法等の専門性の向上に関する造詣が深く、特別支援教育の推進を重要課題として、常に提言を行ってきた。教員との意見交換会や授業視察等で学校を訪れた際には、個々の教員と真摯に向き合い、積極的に授業運営に関する助言を行うなど、個別の現場についてもできる限りの改善を図っていこうという姿勢で職務にあたった。</p> <p>令和5年に策定した「鳥取県特別支援教育推進計画」の作成にあたっては、就学前から就労に至るまでの切れ目ない支援体制の構築や、社会等の実態の変化に応じた特別支援学校における教育の充実、教職員の専門性向上と福祉・医療機関との連携、そして共生社会の実現を目指した特別支援教育の推進について、医師としての専門性を活かし現場の実情に基づいた具体的な提案を行い、施策の実現に結び付けている。</p> <p>特別支援学校における就労促進に向けた取組として、特別支援学校技能検定を実施し、特別支援学校に在籍する生徒が身に付けた知識、技能、態度等を検定で発揮し認定されることで、「働く力」「働く意欲」等の一層の向上を図るとともに、生徒の職業に関わる技術や取組姿勢を一定の基準により評価し認定することで、企業の雇用促進につなげている。</p> <p>また、ICTを積極的に導入することで、入院や自宅療養中の学習を保障するとともに、特別な支援を必要とする子ども一人一人の障がいの状態や発達段階に応じた学びを充実させ個々が有する力を最大限に引き出すことができるよう、教育環境の整備を行った。</p>

# 小椋 博幸（おぐら ひろゆき）

職名

前 倉吉市教育委員会教育長

（任期：平成30年4月から令和6年3月）

## ○学校教育に関する功績

氏は、任期中に第3期倉吉市教育振興基本計画作成に着手し、「豊かな心を持ち 自立して生きる 未来を拓く人づくり」を新たな教育理念として掲げ、倉吉市教育委員会の総力を以て教育目標達成に邁進する機運を高める原動力となった。児童生徒が予測不可能な未来を生き抜くために必要な資質・能力を育成するため、地域や学校現場に対して適切な指導・助言を行い、倉吉市の次世代育成を推進した。氏は中学校の教諭や校長、そして教育行政の豊富な経験をもとに、「日々の教育の成果を子どもたちの姿で表そう。」を合い言葉に、義務教育のあり方についても常に提言を行い、教育改革を進める上での、先導的役割を果たした。その姿から、教職員をはじめ保護者や市民の信頼と尊敬を一身に受けていた。

氏は、少子化が進む本市において長年の懸案事項であった小学校の適正配置のための取組を就任当時から進めた。該当地区に足を運び地域住民や保護者の思いに耳を傾けることに注力しながら、児童にとってよりよい教育環境を整えることを丁寧かつ粘り強く伝え続けた。その甲斐あって多くの保護者や地域住民の賛同を得た上で、令和5年度、令和6年度と近隣の小学校6校を統合して新たに3小学校を開校するに至った。これら3校の児童たちは、それ以前より多くなった地域住民に見守られ、新たな友人や教職員とともに充実した学校生活を送ることとなり、氏には感謝の言葉が多く寄せられた。

また、在任時は新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るった時期と重なり、小中学校も様々な面で大きな影響を受けた。未曾有の事態の中、児童生徒の学びを止めないために、卓越したリーダーシップを発揮し、小中学校長に進むべき道とその方策を伝え続け、各学校は迷うことなく学校運営を進めることができた。また、期を同じくして始まった国のGIGAスクール構想の基、児童生徒に1人1台貸与されたデジタル端末機器活用が児童生徒の様々な面で資質・能力向上に資するよういくつもの施策を打ち出した。

## ○社会教育に関する功績

倉吉市では地区公民館において、昭和44年から管理委託制度、平成18年から指定管理者制度で「倉吉方式」と呼ばれる住民主体の社会教育を推進してきた。これまで、全国優良公民館表彰において、本市13館中9館が受賞しているが、地域課題の解決に向けた「倉吉市公民館研究指定事業」を重点施策事業に位置づけ、各地域と連携した社会教育の推進に尽力し、在任中に3館の受賞に至った。特に平成30年と令和元年には2年連続で全国優良公民館表彰「優秀館」を受賞した。また、令和3年度からは従来の公民館機能に加え、地域振興、地域防災、人材育成等の支援を行う地区コミュニティセンターとして、社会教育理念の基、住民の主体的参画による持続可能な地域づくりを推進する体制強化に寄与した。

さらに、高校生が地域の課題解決に取り組む「倉吉ハイスクールフォーラム」を平成29年から開催し、令和元年以降には「中部ハイスクールフォーラム」として、鳥取県中部1市4町に広域化することで、高校生と地域社会の新たな連携及び参画を構築し、次世代育成に大いに尽力した。

## ○文化事業の振興に関する功績

氏は文化・歴史面においても豊かな見識と指導力を発揮し、多方面において尽力した。文化財は、風土と歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられた貴重な財産であり、後世に継承されるべきとの認識の上に立ち、山陰を代表する最古級の本格的な寺院跡である史跡大御堂廃寺跡を、史跡の調査成果に基づいた価値と魅力を積極的に発信し、地域住民や来訪者が憩い学ぶ場となるよう、保存活用計画を令和2年3月、整備基本計画を令和3年3月に策定し、令和5年度から史跡整備工事として着手した。

更に、倉吉博物館では、郷土作家の前田寛治・菅楯彦を顕彰する全国規模の美術展を開催し、多くの方に来館していただいている。この美術展の取組をはじめ、倉吉の芸術文化ならびに伝統文化の調査研究を高い見識から先導してきた。その成果は、特色ある

倉吉文化の創造として結実し、全国に「薫り高い文化のまち倉吉」を発信するうえでも、文化・芸術に深い造詣を持つ氏の貢献度は高く評価される。

また、地域の情報拠点、文芸活動の活性化を目指す図書館の充実にも努めた。読み聞かせなどによる子ども読書活動の推進、中高校生を対象とした進学、就職情報の提供、ビジネス支援による起業や商品開発、認知症予防にも効果がある音読の普及、依頼に応じ、全国の図書館との相互貸借等を活用した資料提供の充実、官報・国立国会図書館が所蔵する図書等・ビジネス・農業及び新聞記事等の各種データベース導入による情報提供の拡充、及び類縁機関・ボランティアとの協働など、図書館の運営方法や環境整備に秀逸な手腕を遺憾なく発揮した。加えて地域文芸誌、倉吉文芸の充実にも尽力した。特に、伯耆国守山上憶良にちなんだ山上憶良短歌賞を継続し全国及び海外から多くの作品を集め地域の伝統文芸の振興に寄与するとともに、受賞作品揮毫展（巡回展）を開始し、歴史文化資産に富む倉吉を広く喧伝することに成功するなど、独創的かつ積極果敢な行動で開かれた図書館づくりを牽引した。

#### ○教育行政における功績

倉吉市教育委員会教育長として6年間の実績があり、市の教育行政全般に関して推進の責任者として高く評価されている。

また、全国都市教育長会理事及び常任理事、中国地区都市教育長会副会長として活躍した。

上森 英史（うえもり ひでふみ）

職名

前 米子市教育委員会教育委員（任期：平成15年7月から令和6年5月）

功  
勞  
の  
内  
容

氏は、高等学校の非常勤講師や小学校の教諭、PTA会長などの豊富な経験や卓越した見識を活かし、平成15年7月に米子市教育委員会委員に就任以来、20年10か月の長きにわたり、多くの教育課題の解決に努めた。特に、リフォーム・インテリア関係会社の代表取締役としての経験を活かし、学校施設の構造体の耐震化対策や小中学校普通教室の空調設備設置、ICT教育を推進するためのタブレット端末の導入などの学校施設整備について多くの助言・指導を与えた。

また、米子市教育委員会において、保護者としての立場から教育に対する問題を提起しながら、学校教育や社会教育の振興及び地域文化の向上に尽力した。

**○学校教育に関する功績**

米子市教育委員会委員として、学校計画訪問に積極的に参加し、学校現場の状況・課題の把握に努めた。また、令和4年には、在籍する学校へ通いづらさを感じている児童生徒のための学校や家庭以外の居場所・学びの場として「米子市教育支援センター～ぷらっとホーム～」の開所、平成27年度からの全ての中学校における学校給食の開始など、課題解決に向け様々な助言を行ってきた。

**○社会教育に関する功績**

「地域づくり」をはじめとした多様な学びの支援、図書館サービスの適切な提供、20歳を祝う会の企画・開催を推進したほか、「歴史と文化に根差したまちづくり」を目指し、本市の貴重な文化財の保存活用に関する施策を総合的に推進した。

その成果として、平成18年に米子城跡の本丸、二の丸などが国史跡に指定され、令和3年に三の丸の一部（旧湊山球場）が追加指定された。

また、平成22年における、日本を代表する建築家である村野藤吾氏が設計し、日本の公共建築百選に選ばれている、米子市公会堂の存続・改修や、平成25年の米子市図書館・米子市美術館リニューアルオープンについて助言した。

また、PTA会長の経験を活かし、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進について助言するなどし、令和6年度に市内全ての小中学校に学校運営協議会を設置・運営することとなった。

**○人権・同和教育に関する功績**

全ての人の存在意義を認め、自分のいのちと他人のいのちを最大限に尊重し合う心を育て、1人1人が自分に自信や誇りをもち、将来に夢や希望をもって進んでいけるよう、人権教育の推進に尽力した。人権及び人権問題に関する深い認識と実践力を身につけた推進者の育成のため、教職員研修を行い、校種別「道徳科における人権学習授業づくり研修会」の実施、日本語指導が必要な児童生徒等への支援等について助言し、推進した。